

「旭市人口ビジョン」

1. 人口の現状分析

(1)本格的な人口減少

◆旭市の総人口は今後25年で約17,500人減少。  
生産年齢人口は約15,500減少。(社人研推計)

(2)自然増減(出生・死亡)

◆合計特殊出生率は、1.44(平成25年)で、  
「自然増減」の減少傾向は比較的小さい。

(3)社会増減(転入・転出)

◆平成15年以降、転出超過となっているが、  
「社会増減」は拮抗している。

(4)年齢構成比率

◆平成22年 → 平成52年(社人研推計値)  
老年人口: 24.1% → 35.8%  
生産年齢人口: 63.0% → 54.3%  
年少人口: 12.9% → 9.9%

(5)地域経済等への影響

◆平成52年に51,540人まで減少推計  
◆人口減少が続けば、生産力や地域経済  
の縮小はもとより市民生活に必要な生活  
サービスの維持が困難になることが懸念

2. 人口の将来展望

(1)目指すべき将来の方向

◆地域の特性・資源を最大限に活かし、誰  
もが元気で住み続けられるまちを目指す。

(2)将来目標

◆出生率の改善と転出超過の解消  
平成72年に〇〇〇〇〇人程度を確保。

「旭市総合戦略」

1. 基本姿勢

- 「旭市人口ビジョン」の将来目標に向け、人口減少の克服と持続可能な地域づくりを実現するための今後5か年の基本目標と施策の基本的方向性を示す。
- 産官学労言の各界代表者による推進体制
- 市議会における審議と幅広い市民意見の聴取
- 千葉県との情報共有と連携
- 外部有識者の参画により客観的な効果検証と改善を行うPDCAサイクルの確立

2. 基本目標と基本的方向

市の特性を生かした取り組みを行うため、国・県の総合戦略の主旨と旭市総合戦略懇談会での意見を踏まえ、基本目標と重点プロジェクトを設定し、地方創生に向けた施策を展開する。

**魅力ある雇用を創出し、安心して働けるまちづくり**

【産業経済】【観光】

☆産業の振興や新たな雇用の場を創出することで、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環の確立を目指す。

(仮)地産地商プロジェクト

- 道の駅「季楽里あさひ」との連携
- ふるさと名物開発販路の推進
- 農村企業家の育成と推進  
(儲かる農業の推進)

**結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり【健康福祉】【教育文化】**

☆結婚・出産から子どもの自立までを総合的に支援し、子どもから高齢者、障がいを持つ人や男女の区分なく誰もが生きがいを持てるまちを目指す。

(仮)子育てプロジェクト

- 結婚出会いの場づくり
- 妊娠～子育て切れ目ない支援
- ふるさと教育の充実

**ひとの定着・還流・移住の流れをつくり、人々が集うまちづくり【生活基盤】【交流】**

☆地域の総合力を高め、住みやすい環境づくりを進めるとともに、住んでよかったと思えるまちづくりを目指す。

(仮)故郷創出プロジェクト

- ▲シティセールスの推進
- ▲定着支援
- ▲あさひへの愛着と景観づくり

**将来に渡って元気な地域をつくり、安全・安心で暮らしやすいまちづくり【防災】【行政経営】**

☆市民が生活やライフスタイルの素晴らしさを実感し、安心して暮らし続けることができるよう、多様な主体が連携して地域を支える仕組みを目指す。

(仮)未来形成プロジェクト

- ◆小さな拠点の形成推進
- ◆安心して暮らせる地域づくり
- ◆行政経営の効率化